

# いのちの森づくり 2020<sup>ア</sup> 宮脇昭復活植樹祭（神奈川県秦野市）

宮脇 昭先生 メッセージ（植樹祭パンフレットより）

## 今なぜ木を植えるのか

緑の植物からなる森は、生態系の中の唯一の生産者です。それに対して人間を含めた動物はすべて消費者であり、緑の植物に酸素と栄養源を頼っています。どんなに科学・技術を発展させ、富を手に入れても、私たち人間は他の動物と同じように、緑が濃縮している森に依存して生きています。

土地本来のふるさとの木によるふるさとの森、すなわち日本人が4000年来自然を敬い、自然と共に生きてきた日本の英知、鎮守の森（今日では世界共通語となっているCHINJU NO MORI）は私たちの生存基盤です。

本物のいのちの森づくりは、混植・密植し、色々な種類がお互いに競争しながら少し我慢して共に生きる、自立的な生物社会の構築を目指します。このような生物多様性に富んだ土地本来の森であれば、台風・地震・大津波にも耐えられます。長い時をかけてその土地のあらゆる条件に耐えて生き延びている高木、亜高木、低木、下草の多層群落を形成し、土の中のカビやバクテリアまでが、一つの生態系というシステムとして成立、機能している土地本来の森を再生することです。生物が生産・消費・分解の仕事をして、生態系のシステムを回復させ、環境を安定させて維持する森づくりです。

2020年には、オリンピック・パラリンピックという大イベントが日本で開催されます。オリンピックの理念は、人類にとってとても大切であり尊重すべきことです。しかし、負の側面では多くのエネルギーを消費し、二酸化炭素を排出します。

地球温暖化の問題は、人類が未来を健全に生きのびるために、国境を越え、民族・宗教などのさまざまな枠を越えて、今すぐみんなが取り組まなければならない課題です。私達は、現在の豊かな生活を維持するために、毎日化石燃料を燃やして二酸化炭素を排出しています。人間活動が活発になり、産業・工業が発達して、市民の生活が豊かになるにともない、排出される二酸化炭素の量も急増します。2020年には、イベントにより多くの二酸化炭素が排出されます。

二酸化炭素を減らす最も確かな方法は、徹底的な発生源や省エネ対策と共に、もう一度、土地本来の生物多様性を育む強い森を再生し、炭素を、木に、森に閉じ込めることです。日本の1億3000万人が、世界の70億人が、4年に1度のオリンピック・パラリンピックという大イベントごとを契機に、1人3本、10本と植えて、足元から森をつくったらどうなるでしょう。数百年・数千年続く土地本来の木を植えることは、今すぐどこでも誰でもできる積極的な地球温暖化対策です。他の様々な二酸化炭素の発生源対策とともに、一人ひとりが真剣に取り組む事です。行政、企業、国際機関、地域の各団体、NPO、NGOが森づくりの舞台監督、主役は小・中学生の皆さんから壮年・熟年の人たちまですべての市民です。ともに額に汗し、大地に手を触れて、足元からいのちの森をつくっていきましょう。あなた自身とあなたの愛する人、あなたの隣人と、そして、人類を支えているすべての野生生物が共に生きのびるためです。土地本来の森をつくることは、生態系（エコシステム）を地域から地球規模で維持し、人類がこの緑の惑星、地球で未来に向かって生きのび、着実に発展する、もっとも的確で正攻法の手段であります。ともに、足元から今すぐ木を植えましょう。

